

【緑地を楽しむ本】

## 『バケツの こおり』

ちいさなかがくのとも 2022年1月号ほるぷ出版

木坂涼/文 武田康男/写真・構成 福音館書店



「バケツの氷？こんなものが絵本になるの？」本を手にした時の率直な感想でした。でも、ページを開くと・・・そこにはお月さまのようにまん丸で、しかも光を受けてキラキラと不思議な模様に見える氷が。空にかざすと透明な部分は空に溶け込み、模様は針葉樹の林のようで、まるで北国の森に迷い込んだかのように。えー、たかが氷で、こんな美しい模様が楽しめるの？というくらい、いろいろな日のバケツの氷の写真が並んでいます、一つとして同じものはない、どれも一枚だけの自然の造形です。

そして、氷の裏を返すと・・・これまたすごい！表から見ていたのは絵画、裏は彫刻と

言ってもいいでしょうか、立体なのです！人間には絶対作ることにはできないでしょう、細かく流れるような、踊っているような氷の形。こんなすばらしいものが、バケツの中で作られていたとは。

読んだすぐその日から、バケツを庭に置いて氷が張るのを待ちました。氷が張った日は、本にあったとおり、私（のバケツ）でも簡単に作れます、今まで知らずにこんな美しい世界を見過ごしてきたのですね、残念。でも、まだ間に合います、寒い朝が楽しみになってきました。この絵本は美しい写真が決め手です、誰が撮ったのだろう？と表紙を見て納得、『すごい空の見つけかた』や『美しい気象観察図鑑』など多くの自然写真を発表している武田康男さんでした。武田さんの写真が堪能できるサイトも紹介しておきます。 <https://skies4k.com/>

(小川)